

がんどう

甲にろうそくを立てて使う清浄用の燭台道具です。がんどう本体をどのような角度にしてもろうそくがまっすぐ立つように工夫されています。江戸時代にろうそくが作られるようになると、このがんどうのほか、いろいろな清浄道具が作られるようになりました。

I-3-2

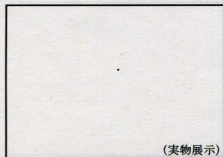


(実物展示)

やじこ 矢立

矢立は算の清浄用の筆記用具です。今のように鉛筆やボールペンなどない時代は筆と墨で文字を書きました。矢立は文字を書くために必要な筆と墨を入れる墨壺と筆ひつにした天板を用いた道具です。江戸時代以前には使われていたものも作りますが、次第に材質が工夫され、筆には墨が漏れないように防滴できていたものも作られました。この矢立を墨に墨しておけばいつでもどこでも文字を書くことができました。

I-3-3

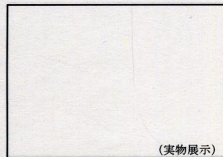


(実物展示)

えじこ 嬰兒籠

えじこ、えづこ、えんつこなども呼ばれます。昔はどの家でも兄弟が多く、矢立の子供がいきました。特に蘭家の蘭色、赤ちゃんの顔を見ている顔がない目と年中仕事が大変なので、外で仕事をすると夜仕事をするときなどは赤ちゃんをこの籠に入れておきました。嬰兒籠は裏でできているため暖かく、持ち運びにも便利でした。この蘭船に入られたまま赤ちゃんはあざ面などにおかれ、いつの間にか眠っていました。

I-3-4-a



(実物展示)



えじこに入れられた子供

I-3-4-b